



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして

10



「わ(和・輪)」ふれあい共同作業所 げんき班
※紹介が10ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 日中事業所合同研修 P2～3
- ▶ 保護者連合研修会 開催 P8～9

2025年10月15日 毎月1回15日発行 一部200円 (法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます)

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP



公式 Xアカウント



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

第3回「日中事業所合同研修」開催

日頃の課題を持ち寄り、学習・交流

はじめに

ゆたか福祉会には障害福祉サービス事業として就労系（A型・B型・移行）事業所、生活介護事業所と11カ所の日中支援事業所があります。法人全体で職員研修は年2回行っていますが、二年前より日中支援事業所で共通する課題を交流し、深めていくために年1回の研修会を開始しました。

	事業所名	レポートテーマ
防災対策	リサイクル港作業所	自然災害 BCP の宿泊体験
	ふれあい共同作業所	なかまの防災食体験
5S活動	みらいろ	5S プロジェクトチーム ～職員・なかまを巻き込んで～
	なるみ作業所	作業環境づくりの一步として
工賃支給の取り組み	リサイクルみなみ作業所	作業アセスメントと工賃向上に向けた目標、個別支援計画の位置づけについて
	ゆたか作業所	生活介護の工賃支給システムの検討経過と模索

支援や取り組みをまとめ、実践として客観視していく機会が少なくなっている中で、この研修は座学に加え、「各事業所のレポート発表を通して学び合うことを大切にしたい」と考え、実施しています。

今回の合同研修は9月6日（土）、13時から17時半で開催。11カ所全ての日中事業所から、総勢97名がオンラインでつながりました。テーマは①「日中支援事業所の防災対策とその対応」、②「5S活動の基礎学習と交流」、③「工賃支給の取り組みと課題」の3つで行いました。以下、各テーマに沿って報告します。

日中支援事業所の防災対策とその対応

まず、能登半島地震で被災されたきょうざれん石川支部の「社会福祉法人すず椿」理事長の宮野修様より「発災後の安否確認と事業継続に向けた課題」でお話をいただきました。元旦に起きた大規模地震の中、電

話が通じない状況での利用者や職員の安否確認は手探り状態。「業務用グループラインが進めた」とのことでした。職員の住居も全壊や半壊が多く1.5次避難、県外避難等の様々な状況があり、利用者全員の確認が17日まで長引いたこと等、安否確認の大変さが語られました。

事業再開については「新たな送迎ルートの安全確認」や「少ない職員体制と作業活動が途絶えた状況でどう再開するか」「トイレが使えず支援物資のラップボン（手動個包装式簡易トイレ）と凝固剤が有効だった」「水の確保が重要だった」と語られました。

最後に「予期せぬ事態に備えた“収入確保”、“防災備蓄”、“正しい情報提供”の3点が重要とまとめられました。今後起きる南海トラフ等の自然災害BCP（事業継続）への対策と



震災後「すず椿」にきたトイレカー～汲み取りができずほとんど機能しなかった～

対応を考える点で非常に参考になりました。

講演に続き、リサイクル港作業所からは、指定福祉避難所開設を想定し、実際に利用者が床で横になる体験のレポート報告（詳細は広報誌11月号で紹介）と、ふれあい共同作業所より「非常食を実際に体験し、どんな課題があったのか」について報告がありました。

どちらのレポートも実体験の大切さを基にした報告でした。特にふれあい共同作業所では体験を通して、多くの方が食べられることが分かった一方、「レトルトパックの封開け等どんな支援が必要か」や、「全く食べられなかった仲間の把握ができた」ことが話されました。今後の支援や介助法の工夫、災害時の厳しい支援体制を想定した食事形態のあり方を考えていく機会になったと報告されました。

5S活動の基礎学習と交流

5S活動（整理・整頓・清掃・躰（習慣）は、各事業所で現場づくりに位置付けているものの、継続・定着が難しい課題になっています。つゆはし作業所丸山所長による「作業環境つくりと5S」をテーマに、

心地よい環境作り **5S活動** にご協力ください



「作業環境つくりと5S」報告より～5S活動の周知～

改めて5Sの基礎を学びました。
 「5Sは目的ではなく手段」であること、「職場環境を安全で効率的に改善するための基本」であり、「環境づくりのステップゼロ」であること。「とにかくやる」という事が大切で、「継続して行う事が必要だ」と強調されました。
 続いて、みらいより5S委員会を立ち上げ、現場環境の改善を始めた事が報告されました。
 なるみ作業所からは、隣接するゆたか希望の家の作業療法士と連携して、現場環境改善を取り組んできたことが語られました。椅子と机の高さや配置を見直し、「効果が見られてきた」事が報告されました。

工賃支給の取り組みと課題について

5S活動は、法人の事業計画に「全ての事業所で」と位置付けられている重要な課題です。今回の学習を機に、全ての事業所で具体化を進めていくことの大切さを共有しました。

就労系だけでなく、生活介護でも就労活動を行っている事業所では、工賃を支給しています。これまで工賃支給の仕組みは事業所単位であり交流されたことがありませんでした。

今回は就労系のリサイクルみなみ作業所と、生活介護からゆたか作業所より報告が行われました。リサイクルみなみ作業所からは、利用者の高齢化が進む中での工賃システムの検討経過や模索の状況が報告されました。「個別支援計画と工賃評価を連動させ、作業アクセスメントを通して、利用者のモチベーション向上に繋がっている点が参考になった」という意見が多くありました。

また、「生活介護事業所での工賃評価の工夫」については、多くの事業所が課題として感じている部分であり、考える契機となりました。「生活介護では作業以外の活動評価は必要

か」「工賃評価について引き続き検討が必要」という意見もありました。

B型と生活介護、それぞれの評価方法や工賃のあり方について、さらに交流を深めていく必要性を共有しました。

まとめ

3年目となる合同研修でしたがオンライン接続にも慣れ、音声、映像とも、スムーズに運営することができました。各事業所での視聴も集中した参加となりました。映像を見ながら感想を出し合ったり、メモを取る職員が多く見られるようにもなりました。今回のテーマが自分たちの現場課題に通じる内容であったので、関心も高く主体的な参加となりました。

ここで参加者の感想をいくつか紹介します。「防災について、もっと真剣に取り組んでいく必要性を感じた」「職員も含めて、実際に体験することを自分たちもやっていきたい」「5Sについて理論的に学べ、今後も活かしていきたい」等、積極的な感想が多くありました。

一方で、「テーマを詰め込みすぎで、聞くだけで終わり」という声もありました。主体的に参加を促す工夫は、

引き続きの課題です。

今回のテーマについては、自分たちの支援に引き付けて考える良い機会となり、目的は達成できたと思います。まとめとして「今回学んだことを、自分たちの事業所で実践として模索し、一歩でも前に進めていく」ことを提起し閉会しました。

最後になりましたが、今回防災対策についてご講演をいただきました「社会福祉法人すず椿」理事長の宮野様には、日々大変な中、資料作成含めご協力をいただきました。ありがとうございました。

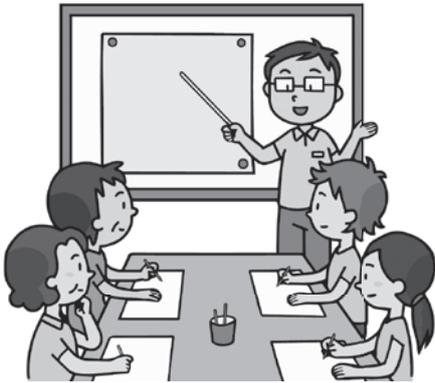
**通所部門 所長会議
合同研修ワーキンググループ**



8月地域支援事業本部 全体職員会議 研修会

地域支援事業本部では、8事業所から40名程が参加する全体職員会議を、隔月第2火曜日の午前中に行っています。また、職員会議の半分の時間を使って、研修や運営、実践の交流をしています。

今年度の4月と6月は「高齢期の仲間支援」をテーマに、現場実践の報告学習、「人生会議」について学び、グループワークで深めるなどを行いました。



8月の研修会では、「小規模施設の食事提供における衛生管理」「障害者の性についての学びと支援」の2つのテーマを掲げ、取り組みました。

「食事提供における衛生管理」については、希望の家管理栄養士の富永さんから、「障害者の性について」は、日本福祉大学の木全和巳先生から、お話をいただきました。

今年度後半には「意思決定支援について」「権利擁護・虐待防止」などのテーマでの学習を予定しています。

小規模施設の 食事提供における 衛生管理

地域の所長会議で「食事提供の際の衛生管理が事業所によって違いがある」ことが分かり、今回の企画となりました。具体的には「エプロン

はつけているのか」「台フキンは洗濯が漂白か、除菌の出来る食器用洗剤か」などについてです。

富永さんからは、名古屋市が出している「小規模障害者施設における食品衛生の基本方針について」をベースに報告がありました。出てくることもあれば見直さなければならぬこともあり、パート職員の方達にもきちんと伝える機会を設けていく必要を感じました。

障害者の 性についての 学びと支援

それぞれの事業所では多かれ少なかれ、男性利用者と女性利用者のトラブルがあります。木全先生からは冒頭で、「本当に困っているのは障害者を持つ当事者」「人として当たり前の性の衝動を、障害があるがゆえに遠ざけてしまっている」との言葉がありました。

衝撃的でしたが、同時にどう受け止めてよいのか戸惑う自分もいました。「支援者が育ってきた環境（性に対する考え方）や、男性・女性の

違い、そういったものが利用者を見る目を歪めている」と続けられました。「その歪みをいかにして知るのか（自己覚知）」「いかにして本人の立場に立って理解していくのか（共感的理解）」等についても話をされました。そして、利用者の例から「見立て」「手立て」「立ち位置」と言う臨床実践の3つの要素について語られました。

先生のお話で、「合意の下で身体の関係を持ってない」「自分も大切にしながら、相手も大切に」といった関係を築けないのは何故かを考える。「思うようにならないのが性の問題。皆同じ思いを持っている。性の部分の支援を上から考えると見えてこない」と言う言葉が印象に残りました。自分は性の問題には蓋しがちで、「これまで、どこまで、向き合ってきたのだろうか」と、深く考えさせられました。

ゆたか生活支援事業所ながわ
所長 宮園誠司

リサイクル港作業所

名古屋市職員 福祉施設実習受入れ

受け入れにあたって

2025年8月21日(木)から、土日を除く27日(水)迄の5日間、名古屋市の「新規採用職員福祉施設



体験研修」を受け入れました。毎日2〜3名、日替わりで計13名の方が参加されました。

研修のねらいは、「福祉施設現場実習を通し、名古屋市職員として必要な人権感覚やさまざまな状況や立場に置かれた人への想像力や共感する心を身につけ、思いやりの心を育む」です。私たちの事業は、名古屋市の各家庭から出された空きびん・空き缶の資源選別を行う就労継続支援B型事業所です。「障害者がどう頑張っているか」「共通の願いや個別の状況に事業所がどう向きあっているか」をお伝えする絶好の機会と思いい、臨みました。

オリエンテーションと交流会

オリエンテーションは法人理念と事業所紹介。障害者の「働いて高い給料、地域で生活したい」という願いから、この作業所が30年前に出発した事。B型の平均工賃を大きく上回っている事。特別支援学校卒業生や企業をリタイアした方等、年齢も

様々で多様な働き方があることを説明しました。

毎日行った利用者との交流では、実習生から利用者に質問がありました。

実習生 作業所で好きなことは？

利用者 旅行

実習生 ところが良かったですか？

利用者 北海道

実習生 土曜日や日曜日は

利用者 ゲーム

実習生を相手に堂々と話す姿はさすがの一言。「初めての人の会話は、自信に繋がる」と感じました。

たくさんのお褒めの言葉をいただいて

「予想を超えていた」「メリハリすごい」「熱中症対策いいですね」感想は、お褒めの言葉でした。

「役所で会うB型へ通う障害者の姿からイメージした作業所と違った」「休憩におしゃべりしている様子と、作業中の様子がまるで別人」「隣の方が仕事を教えてくれた」等、日頃職員が大事にしていることでした。

主体的に作業に向かう人を育て、高品質のリサイクルを実現。

「サマータイムを導入し、休憩時間を長くとり」「水分を補給し、厳しい暑さを乗り切り」「助け合って仕事をしている」ことが伝わったと感じました。同じ汗をかいた実習生の周りに輪ができて、笑顔で話す姿が印象に残っています。

ピンチをチャンスに 実は、実習生は久しぶり

以前、実習生とトラブルがあり、それ以来、受入れを中止していました。「あなたはだれ?」「どうしてここにいるの?」という感じで嫌がらせがありました。普段はそうした事はないため、「実習生」の意味が分からないのか?」と思い、今回は実習生との交流の場に同席してもらいました。すると、表情が変わり、笑顔の対応になりました。こうした姿から、利用者にとっても成長できる機会であったと感じます。実習生の皆さん、真摯にご対応いただき、ありがとうございました。

所長 萩原千秋

暮らしの中に彩りを



8/1

金

ゆたか通勤寮 ～水袋公園夏祭り～

通勤寮では、地域との交流を兼ねて水袋公園夏祭りへの出店を毎年行っています。今年も8月1日の夜、子供食堂としてフランクフルトの販売を行いました。

仲間たちには、地域との交流を兼ねて、調理や販売を手伝ってもらいました。日常とは違い自分たちが主体となり接客や調理をしていると、お客さんの喜ぶ顔や感謝の声を間近にして、仲間たちもやりがいを感じていました。この取り組みを通して仲間たちの協力や交流も増え、新たなかかわりや集団としての成長を得ることもあります。

祭りを楽しみに準備から張り切る人、当日、一生懸命手伝う人など見せる姿は様々ですが、普段とは違った仲間の輝く姿がそこにはあふれました。翌日8月2日の夜には「ゆたか生活支援事業所みなみ」がフランクフルト販売を引き継いでくれました。

夏祭り実行委員一同



8/2

土

なるみ作業所 ～諸の木地区盆踊り～

8月2日(土)、大清水福祉センターのある緑区諸の木町内会にて、恒例の盆踊り大会が開催されました。今年も、なるみ作業所・ゆたか希望の家の職員で自治会の会合に出席し、会場設営や撤収、テント・備品の貸し出し、模擬店の運営などで開催に協力しました。

猛暑が続くなかでしたが、当日は大勢の地域住民の方々が来場し大盛況。両事業所の家族会にもご協力を頂いて実施した飲食販売は長蛇の列ができ、見事に完売となりました。また、自主製品の販売には希望の家の利用者も参加し、地域の方々との自然なやり取りの機会となりました。

人口増加の著しい緑区において、今後も各方面と連携しながら、地域との関わりを大切に、利用者や地域の皆様の暮らしを支えていきたいと思っています。

須澤 守



8/9

土

みらいろ ～みんなで作り上げた祭りは最高!～

当日午前中は、仲間たちと力を合わせて出店準備。輪投げ、千本引き、フリースローなどのゲームが並び、夏らしくかき氷も登場しました。昼食は焼きそば! 以前から「みらいろで焼きそばが食べたい」という仲間の声が聞かれ、調理や盛り付けをみんなで一緒にいき、仲間の願いを叶えることが出来ました。一生懸命作った料理は格別で、「自分で作ったからおいしい!!」と言った声が聞かれ、達成感に満ちた笑顔が印象的でした。

午後からがお祭り本番。店員さんとお客さん役を交代しながらの参加としました。ゲームを楽しむ声や、かき氷を一気に食べて頭がキーンとなる仲間もいました。終始笑い声が絶えず、活気に満ちた一日となりました。みんなで作り上げた祭りは、最高に楽しかったです!!

小塚 千愛



夏祭り 特集

8/20

水

ゆたか希望の家

「明日、甚平着られるかな?」「ゲーム、景品あるかな?」と、仲間たちのワクワク感とともに、毎年夏祭り大会が開催されます。希望の家の夏祭りは15時から始まり、夕食も屋台メニュー、食後には花火大会です。

日常とは違う一日の中で、普段は食事をあまり食べない方が大口で食べておかわりを要求。自閉症の方がひたすら手持ち花火を楽しみ、職員と線香花火で勝負する姿なども見られます。夕方のゲーム大会でも、音楽がかかっているだけで、手を叩きながら笑顔で歩き回っている方々もいます。施設内でのお祭りですが、入所の方だけでなく、生活介護・短期入所利用の方々も、この日はみんな楽しんでました。

地域の盆踊りに参加できない仲間も「みんなで楽しめるように」と始まった「ゆたか希望の家夏祭り」。車いすの方、多動症の方、自閉症の方と、それぞれが色んな楽しみ方が出来るのも施設行事の強みです。仲間たちの楽しみとして、「来年度以降も続いていけば…」と思います。

富永 安理沙



8/27

水

キラリンと一歩

今年の夏祭りは、合併後初めてご家族にも参加して頂き開催しました。午前中は2つの会場に分かれ、射的やもぐら叩き、スイカ割りなど各種ゲームの他、お面や団扇作りを行いました。

昼食は焼きそばやたこ焼きなどを屋台風を提供。リクエストの多かった流しそうめんでは、皆さん箸を持ち上手にそうめんをすくって楽しめました。

午後からはスイーツキッチンカー「café~ふわり~」の出店もあり、名物のバブルワッフルやかき氷、パフェに皆さん興味津々。「冷たくておいしい!」と、スイーツ片手に笑顔があふれました。締めは恒例の盆踊り。参加者全員で太鼓を囲み「炭坑節」や「ダンシングヒーロー」などを踊り、盛り上がりました。

後藤 康



8/6

水

8/8

金

8/26

火

8/28

木

デイサービス宝南

事業所では、夏の風物詩である「夏まつり」を8月の4日間にわたり開催しました。連日続く酷暑のなかでも、「利用者の皆様に、安全に楽しく季節を感じていただきたい」という思いで、職員一同心を込めて準備を進めました。

会場には色とりどりの提灯を飾りつけ、盆踊りの練習にも熱心に取り組まれ、本番への期待が高まります。まつり当日には、かき氷や鈴カステラ、射的や水風船釣りなど、職員手作りの出店がずらりと並びました。慣れ親しんだ「炭坑節」や「名古屋ばやし」の音頭が流れると、特製のやぐらを中心に踊りの輪が広がり、会場は笑顔と活気で満ち溢れました。童心に帰ったように楽しむ皆さまの姿に、私たち職員も大きな喜びを感じました。

永井 規照



9/4

木

名古屋市緑区平手新規事業「地鎮祭」開催

2026年4月開所に向けて準備を進めている緑区平手の新規事業所の地鎮祭が、9月4日に後藤理事長、宇川専務理事、その他関係者参加の下で執り行われました。

この新規事業所構想は、2021年度に土地を購入して以降、議論が本格化しました。2023年6月には、名古屋市障害者支援課と法人関係者で最初の懇談を実施。しかし市の長期計画との関係で構想は振り出しに戻り、構想を練り直し、2024年3月に再度名古屋市と懇談を行いました。

この構想が強度行動障害者と高齢者向けグループホーム、福祉避難所と相談支援事業所を併設した「グループホームを中心とした複合施設整備計画」です。施設整備補助金を申請し、今年6月に補助金の内示があり、地鎮祭を迎えることができました。

今後はいよいよ開所に向けて、本格的な整備が始まります。来年3月末に施設の引き渡し予定です。5年越しの計画が動き出す高揚感と緊張感を抱きつつ、開所に向けてしっかりと準備をしていきます。

平手グループホーム建設委員会

責任者 倉地 伸顕



玉串を捧げる
後藤理事長

9/ ゆたか福祉会保護者連合会

2025年度研修会開催

in名古屋ポートビル

最初に、保護者連合会の矢満田会長から「昨年、好評だった専門職からの報告を、今回は3名の職員さんをお願いしました。分散会も昨年同様少人数で行いますので、たくさん交流をしましょう」と挨拶がありました。

参加者は45名の家族と職員34名のあわせて79名でした。午前中の全体会は初めてオンライン配信をしました。



矢満田会長

法人からの報告

宇川専務理事

理事長がベトナム視察研修参加の為、今回は宇川専務理事が「25年度事業の進捗について」報告を行いました。9月4日に行われたグループホーム平手(仮称)の地鎮祭や、ひいらぎホームの移転・新築事業、事業所やホームで大規模修繕が行われたことが報告されました。

また10月以降に行われるきょうされん署名や、

名古屋市・愛知県の行政懇談会を通じた要望活動への協力と、理事長が各家族会に出向いて懇談を行うなどの新たな取り組みが紹介されました。

職員からの報告 〜専門職として働いて〜

* ゆたか希望の家 管理栄養士 富永安理沙

「食事」というと、食べられなくなって初めて問題視されるように、毎日食べられる事が当たり前になっていいると思います。食べられなくなった時に気付くこと、仲間たちの支援を通して経験したことを今回は報告をさせていただきました。

食事は楽しみであり、いのちと願いに直結する物です。食べるだけが食事ではなく、食べたいという意欲がその人を作ります。報告前は「食事について関心は低いのではないか」「需要も少ないのではないか」と不安もありました。しかし、分散会などで感想を頂き、素直に嬉しかったです。

報告会



分散会



* ゆたか相談支援事業所どうとく丸山京子
「相談支援事業」について

「相談支援専門員と、どう付き合ったらよいか」と保護者の方からの問いを受けて、相談支援の現場からは、「意思決定支援」を保護者の方と一緒に考えていく機会と捉え、報告しました。

意思決定支援は、利用者が自身の生活に関する決定を自ら行えるようサポートすることです。決して新しい取り組みではないのですが、第7期に実践する5か年の重点課題として掲げています。

保護者の方から「わが子は自分の思いを伝えられない。どう意思を汲めるのか」との相談を受けました。特に言葉での意思表示が難しい場合は、日常のかかわりあるご家族、支援者と一緒に「表情・感情・行動・過去のエピソードなど」を持ち寄り、意思を推定し支援を考えている事例を紹介し、午後の分散会につなげました。

＊ライフサポートゆたか 今治信一郎

「ゆたか福祉会 強度行動障害者支援ゼミ」
(以下支援ゼミ)の活動報告

「支援ゼミ」は、法人内でも課題となっている強度行動障害者への支援について、事業所の枠を超えて実践交流を行い、支援方法や技術について学ぶ事を目的としています。同時に、高度な専門知識や支援技術を習得し、事業所における実践を推進する職員の養成についても取り組んでいます。

2025年度は法人外の事業所も参加し、より広範囲な実践交流に取り組んでいます。基本的にオンラインを利用した会議形式で実施しているため、距離や移動時間を気にせず参加できる形式となっています。

分散会の開催

午後は10グループに分かれて分散会を開催しました。今回も保護者の方の要望から、司会と記録は職員で担当しました。自己紹介から始まり、午前中に行われた3名の職員報告を聞いた感想や家族の思いを交流しました。分散会終了後は全体会を開催し、今回は初めて「各グループとも報告者は保護者」としました。

「本人の状態に合わせた食事提供はありがたい」「相談員に相談してください」は心強い」「強度行動障害のある人への支援は、職員が大変そうで離職してしまわないか不安」「子も親も高齢化で不安」「災害時の避難場所が心配」「グループホーム

が足りない」「若い職員が仕事を楽しいと言ってくれて嬉しい」「保護者会を存続させるのが大変」「家族同士、同じ思いを持つ方と繋がりたい」等、共通の話題がいくつも出されました。

分散会のグループ構成は、日中と暮らしの組み合わせで、家族が3〜4名、職員が2〜3名と少人数であり、大いに交流ができました。職員は貴重な話を聞くことができ、多くの事を学んだ研修会でした。

リサイクル港作業所 萩原千秋

参加者の感想

保護者 みのり共同作業所 朝川裕子

午前中は栄養士さんからお話、相談支援専門員のお話、強度行動障害者支援ゼミのお話と、普段なかなか聞く事の出来ない内容ばかりで、どれも興味深いものでした。

特に今治さんのお話は、「先を見通せる環境作りで職員さん・本人共に落ち着いた日常が送れている」との事。これは工夫1つで私にもできる事で、参考にさせて頂きます。

午後からの分散会では、各家庭の思い、困り事など共感できる話が多く聞けました。また、機会があれば参加させていただきまます。ありがとうございました。

職員 つゆはし作業所 河合みずほ

午後からの分散会では、「災害時に避難ができるか」「福祉避難所に職員がいるのか」「親離れ、子離れが難しい」「親亡き後のなかまの生活が不安」「年金が少ない」など、様々な悩みや意見を交流することができ、時間が足りないほどでした。なかまたちが「自分らしく生きていけるように」という保護者の思いを強く感じました。勤務している事業所を越えて、たくさんの保護者の熱意を肌で感じる事ができ、貴重な時間となりました。

ゆたか生活支援事業所みなみ 牛田万里絵

今回初めて研修会に参加させていただきました。皆さんがどんな思いや不安を抱え、「ゆたか」にどんなことを求めるのか、率直な声を聴くことができ、とても学びになりました。また、職員への感謝も伝えられ「ご家族の期待を裏切ることのないようにしよう」と身が引き締まる思いでした。3名の専門職からのお話から、ゆたかの現場での実践について知っていただけたのではないかと思います。ご家族が安心してお子さんを任せることができる場や関係性を作っていけるよう、これからも精進していきたいと思えます。



「わ (和・輪)」

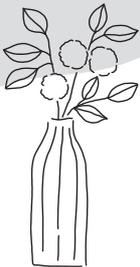
ふれあい共同作業所 ～げんき班～

表紙の作者紹介

6月末「げんき班」の仲間と、国内外で活躍するミュージシャンと画家と一緒に、ライブペインティングを行いました。

即興演奏によるジャズやロック、アフリカ音楽の音と振動を感じる仲間の皆さん。画家のタンクさんと一緒に好きなように絵を描くこと、ミュージシャンと一緒に音を出して楽しむこと、音楽に合わせて踊ること、音を聴いて目を閉じているうちに寝てしまうこともOK! オープンな空間でのびのびと楽しみました。

皆さんに優しく支えられ、自然でポジティブな場から仲間が創り出した一つ一つの作品が、際立つ個性と生命の力強さを伝えてくれます。



順不同 / 敬称略

- 糠谷 彰洋
- 加藤 信子
- 村田 昌史
- 片山 美恵子
- 矢満田 智広
- 堀江 まる子

社会福祉法人
TUTTI 伊藤 幸子

(8月1日～9月10日
手続き分)

賛助会員新規加入者
更新者ご芳名一覧

小邑 弘光
株式会社大谷商会

一般寄附 (8月)

広報・513号

2025年10月号(2025年10月15日発行)
定価1部200円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが
法人本部(052-698-7356)へご連絡ください。



8月

- 1日(金) 共同墓地「盆供養祭」
- 8日(金) 新主任研修
- 11日(月) 事業運営推進会議
- 22日(金) 基礎研修
- 25日(月) 研修部会議
- 26日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 27日(水) 所長会議
- 30日(土) 理事会 / 運営協議会

時々にも思いを寄せて ～初春に届く世界でたった一つの商品～

広報誌2018年12月号表紙
神谷久也さん



1988年になるみ作業所に異動し、神谷さんと出会いました。当時、作業所ではホームづくりに向けて、民家を借りての2ヶ月に渡る体験実習が行われ、数年後に「ひまわりホーム」が誕生します。神谷さんはホーム開所時の最初のメンバーでした。

1999年ゆたか作業所へ異動。その後もお付き合いは続き、お正月には神谷さんが描いた干支の絵とお母様の言葉が添えられた年賀状が届きました。お母様が毎年「久也くん、向さんに年賀状描こうね」と声かけをされたそうです。母と子のやりとりが目に浮かぶようなその優しさ溢れる年賀状は、初春に届く大事な贈り物になりました。



2003年



2004年



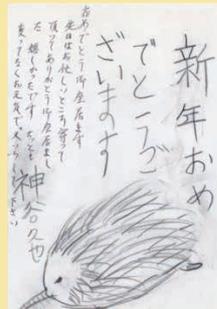
2005年



2006年



2007年



2008年



2009年



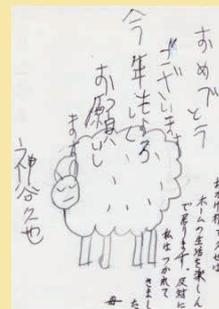
2010年



2011年



2012年



2013年



入社して48年目。鈴木清覚氏の理事長退任後は、一番長く「ゆたか」で働く職員になりました。大学生時代を含めると52年目。たくさんの仲間とご家族の皆さんに出会い、様々な「人生」というドラマの中で、学び、育てられたと感じています。異動したなるみ作業所では当時、自作の紙芝居を持ち、あちこちの事業所で平和の大事さを訴えた「平和キャラバン隊」、将来を見つめて階段を上る可視化した「自立階段」、「グループホームづくり」を視野に入れた取り組み等、活気が溢れていました。

先日、ある法人から「そのブレなさは何処からきているのか」職員研修で話して欲しい」と依頼がありました。初めての内容でしたが自分史を振り返りつつ、テーマは「自分史をともし次代をつなぐ」としました。

「ブレない」と見られているのであれば、それは紆余曲折がありつつも「ブレないゆたか福祉会」と、なるみ作業所に関わらず、いつも温かな眼差しで見守り、協力を惜しまない「日本の母たち」とご家族の姿かと思えます。「次代をつなぐ」ことが求められるこの時期にあって、「自身のやりがい」とは何であったのか」また少しでもお伝えできればと思います。

法人本部 向 幸子

その人らしく 働く 暮らす

Vol.130

仲間

「誰にも負けない！仕事への責任感！」

トライズ 西尾 知己さん



西尾さんは現在55歳。

中学卒業後、クリーニング工場で24年間にわたり洗濯業務に携わって

きました。その後は高齢者施設で7年間、清掃業務に従事されるなど、長年にわたって一般就労を続けてこられました。そして2017年、46歳でトライズへ入所されました。

現在も洗濯現場で休むことなく、タオルや衣類などの私物を丁寧にたたんだり、ご自身の体よりも大きな洗濯機への洗濯物の出し入れをしたり、様々な工程に関わっておられます。

長年のクリーニング工場での経験もあり、洗濯業務には人一倍の誇りを持って取り組むその姿勢は、周囲の仲間や職員からも一目置かれています。作業中には、「きれいにたたまないね」と独り言のように自分に語りかけながら、真剣に取り組まれている様子が

見られます。

責任感がとても強く、通院などで作業を中断しなければならぬ時には、「僕はたまたがしたいんだ」と、感情をあらわにされることもあります。

現場では「ムードメーカー。大好きな吉本新喜劇の「いいよお〜」などのギャグをさりげなく披露し、周囲の仲間や職員を和ませてくれています。

仕事に誇りを持ち、元気に働かれる西尾さんの姿を、これからも温かく見守っていきたいと思います。

齋藤 広樹



業務用洗濯機からの取出し作業

職員

仲間の「思い」を考える

ゆたか希望の家 佐藤 心優



入職したきっかけは、大学教員からの紹介です。「歴史が深く、利用者

にも職員にも寄り添った法人だ」と紹介を受け、体験申込をしました。

体験では、「利用者の個性に合わせた関わりをされている」と感じました。加えて、職員と利用者は支援をする・受けるといった関係ではなく、ともに作業をする「仲間」であるという価値観に触れました。「この場の一員になりたい」と思ったことが、現在につながっています。

今年4月に入職し、5か月が経ちました。7月には全ての勤務形態の業務自立をし、現場で仕事を任されることも増えてきました。福祉は大学で勉強していましたが、介護技術は学んでおらず、重度の障害のある方との関わりもなかったため、業務に慣れるまで時間がかかりました。

今でも仲間の思いを汲み取ることに、とても難しさを感じています。言葉でコミュニケーションをとるこ

とが難しい仲間が伝えようとしていくことは何なのか、日々模索しています。仲間の行動を観察し、その理由をよく考察したことで、意思疎通ができたときはとても嬉しく、仕事のやりがいになっています。

今後、取り組みたいことは、ケア入担当の仲間との個別取り組みです。そのためにまずは、仲間の好きなこと・やりたいこと・行きたい場所などを知っていききたいです。日常生活の中で探すことに加えて、先輩職員のお借りしたり、今までの記録等を見たりして探していきます。

仲間の背景を知り、仲間に対するの理解を深めていきたいです。仲間「思いが通じた！」と思ってもらえる職員になれるよう、日々取り組んでいきます。



取り組みで写真立てを作成中